みんなの広場

ところざわの暮らし 今昔 ⑧

冬至～邪気を払うユズ～

１年の内で、日照時間が一番短い日が冬至で、今年は12月22日がその日に当たります。ユズ湯に入る日としてよく知られ、暮らしの中に親しまれている年中行事といえます。

季節が秋から冬に向かい、太陽の光も弱くなって多くの植物が枯れていく中で、ユズの木は濃い緑の生き生きとした葉が茂り、ひときわ鮮やかな黄色い実をつけています。

すべてが弱々しく感じる季節の中で、このユズのみずみずしさと芳香が、古来、人々にある種の力を与えるものと考えてきたとしても不思議なことではありません。この日、ユズを砂糖漬けなどにして神々に供え、家族で食べるという家もありますが、ユズ湯には毎年入るという家は多いことでしょう。端午の節供のショウブ湯と同じように、今年もユズ湯に入ってユズの芳香で邪気を払い、新しい年を迎えたいものです。

このほか冬至に関する民俗として、ユズは「融通がきく」に通じ、語呂合わせからも縁起がいいものとされ、12月20日に行われる恵比須講の恵比須・大黒にも供えられます。また、冬至の日にユズを１つ味噌漬けにしておき、節分の福茶の茶請けに食べたり、ユズを家の縁の下に転がしたりしておき、火事を防ぐなどの習俗が、埼玉県内には見られます。

ユズ湯

かつて所沢に農家が多かったころ、たいがいの農家の屋敷にはユズの木が植えられていました。第二次世界大戦後の昭和20年代、食べるものが少なく、筆者は腹を減らして小学校から帰るとユズの木に向かい、ユズをもいで食べたものでした。ミカンのように皮をむいて中の房を食べたのです。

今では、酸っぱくて口をふるわせるほどのユズを抵抗もなく食べて空腹を満たした子どものころの思い出があります。（大舘）

とことこ 町内会めぐり

【新所沢地区・泉町町会】
～防犯パトロールで地域の安全を～

私たちの町会は、航空公園駅と新所沢駅を結ぶ西武新宿線の西側に位置し世帯数780余りで構成されています。

泉町には古代のロマンを感じさせてくれる鎌倉街道が、通っています。この鎌倉街道は旧所沢宿の中を通って、峰の坂上に至りますが、そこから主要地方道所沢狭山線に沿って入曽方面に進む本道と、所沢中学校の前で東に分岐して北上する道とに分かれます。

この道は堀兼道と呼ばれ、生涯学習センターまでで消えてしまいますが、入間川道とも呼ばれる本道に対して、重要な間道となっています。

このような町で納涼盆踊り、観光バスでの日帰り旅行、「泉町だより」の発行や所沢中央消防署の協力を得て自主防災訓練を実施し、会員同士の親睦や交流を図るとともに、住民が安心して住める町づくりを心がけています。ほかにも地区町会連合会主催の防災訓練、運動会、ウォークラリー等に参加しています。

また、町会の重点事業として年間を通じて実施しているのが、防犯防災パトロールです。泉町には袋小路が多く、防犯防災の危険箇所になっています。

防犯パトロールのようす

パトロールは、10名１組で２班に分かれ防災無線で互いの位置を連絡しあいながら、防犯灯の点灯不良、戸外に燃えやすいものが置いていないか等も確認しながら巡回しています。

これからも住みよい町を目指して努力していきたいと思います。

街の写真館

▶迫力満点の自転車のアクロバットショーは、一瞬も目が離せません。「所沢市民フェスティバル」（撮影／市民カメラマン・西山元博）10月29日(土)・30日(日)／所沢航空記念公園

◀総勢880人の勇士が、弓道・柔道・剣道の技を競い合った「青少年三道大会」（撮影／市民カメラマン・池田敏明）
11月６日(日)／市民武道館

▲所沢を本拠地に活動する埼玉ブロンコスが参戦し、熱戦が繰り広げられた「ｂｊリーグ」（撮影／市民カメラマン・池田敏明）
11月12日(土)／市民体育館

はつらつ野老っ子

「歌」で人のこころを勇気づけたい

地網（じあみ）　大介さん（けやき台在住）

今回ご紹介する地網さんは、182センチの長身にさわやかな笑顔が印象的な25歳の新人ミュージシャンです。このたび初めてＣＤシングル『jamming(ジャミン)』を出し、デビューを飾りました。

今回の収録曲は、アップテンポの「凪（なぎ）」とミドルテンポのラブソング「夜間飛行」で、流れるようなリズム感がとてもそう快で、聴き終わったあとにも心地よい余韻（よいん）が耳に残ります。

地網さんは、高校時代から友人とバンド活動を行い、卒業後も仕事を続けながらライブ活動をしていましたが、４年ほど前に仕事を辞めて本格的にボイストレーニングを始めました。「漫然と時間が過ぎていく中で、今しかできないことをやらなければきっと後悔する」とこの世界へ飛び込んだ動機を話してくれました。

ライブハウスでのようす

地網さんの歌に対する思いが大きく変わったのは、あるボイストレーナーとの出会いでした。トレーナーの厳しい指導のもと、自分でもはっきりと発声や音量が変わったと感じ、歌の世界で生きていく決意を新たにしたのです。

トレーナーの勧めもあって昨年７月にオーディションを受け、３回の審査の結果、見事にＣＤデビューを勝ち取ります。このときの思いを尋ねると「ＣＤを出せたことはとてもうれしかったのですが、これから本腰を入れて頑張らなければと身が震えるような思いでした」と心境を語ってくれました。プロダクションに所属していない地網さんは自らＣＤショップを回り、ＰＲにも余念がありません。

今は、アルバイトと歌のレッスンを続け、ライブハウスでの活動が中心の毎日です。地網さんには、「人のために歌い、自分の歌で人を勇気づけられるような歌手になりたい」という目標があります。これは、厳しいレッスンの途中で挫折して自分を見失いそうになったときに、強く感じたことだそうです。

「お客さんと一体になって盛り上がれるところが最高なんです」とライブの魅力を語る地網さん。今日もライブハウスに彼の魅力的な歌声が響いていることでしょう。

防災チェック

～あっ地震だ！そのときどうする？～

子ども：最近、地震が多いけど地震が起きたら、どうすればいいの？

お父さん：そうだね。一番大事なことは、自分の身を守ること！机やテーブルの下にもぐって、落ちてくるものなどから身を守ることだよ。

子ども：そうなんだ！それから？

お父さん：すばやく火の始末！ガスやストーブを使っていたらすばやく火を消すこと。ガスの元栓を閉めることも忘れちゃだめだよ。阪神・淡路大震災では漏電による火災も多かったんだ。ブレーカーを切ることも重要なポイントだね。

子ども：そうなんだ。覚えとかなくちゃね。お父さん、あとは、すぐに外へ逃げればいいんでしょ？

お父さん：だめ、だめ。あわてて外へ飛び出しちゃ、危ないよ！強い余震が起きるかもしれないし、瓦（かわら）やテレビのアンテナなどが落ちてきてケガをすることもあるからね。

子ども：わかった！でも、お父さんが一番あわてんぼうなんだよね！

問い合わせ　危機管理課（☎2998-9399・FAX2998-9042）

誰でもエッセイ

テーマ　初めての体験

マイクを持つ

久米・田中　豊

マイクは怖いものと思っていたのに、それがマイクの前で喋ることになってしまったのです。

音痴と言われて70年。「いい声してるね」（元気な声の間違いだ）と言われて、その気になってしまった。あるとき「○○さんは、詩吟が上手なのよ」と聞き、私も教えてと言ってしまった。

それからが大変。半年もしないうちに発表会での新人の紹介がありました。

マイクの前で何かを言わなければと思い、とりあえず名前、年齢、次に自称日本一の音痴だが、縁あって詩吟を始めたことや音痴の私が吟ずると先輩の足を引っ張るんじゃないかといったことをエピソードとして話した。

自分の声というものがわかると、マイクも怖くないとわかった次第です。

過去に戻れる体験ツアーがあったら

小手指町・長沼　典子

２年前実家を訪れた４日後に母が倒れ、半月後に亡くなってしまった。

心臓の持病があるので、いつかは突然にと思いながらも、この世に母がいなくなるという現実は、想像できずにいた。

だから、母と会っても、優しくもいたわりもせず、むしろいつもどおりのわがままな娘そのものだった。

その後悔と、恋しさ、空しさ、そしてすべての悲しい言葉を束ねても表現しきれない、胸のよじれるような喪失感を味わったのは、もちろん初めてのことだ。

もし、過去に戻れる体験ツアーなるものができたとしたら、われ先に参加して、親孝行してくると決めている。

孫の１人旅

松郷・島村　てる子

嫁の実家がある会津若松へ、７歳の夏に孫が１人で行きました。東京駅で東北新幹線に乗せたとき、初めての１人旅で、緊張と心細さの入り混じった顔をしており心配しましたが、無事についたと元気な声で電話があり、ほっとしました。

そして今年の夏には下の孫が１人で行くと言い出し、高速バスで行きました。

物騒な世の中で、事件・事故が続発していて、小さな子どもの１人旅が危険なことは、重々承知のうえ、孫たちの自立心の向上にもつながると考え、息子夫婦は、思い切って行かせたようです。

昔から「かわいい子には、旅をさせろ」と言われますが、孫たちは、１人旅で得た自信を糧に大きく成長してほしい。

この初めての体験を大切にして、何事にもチャレンジさせていきたい。

食べることは生きること

若狭・井上　美恵子

ある初夏のお昼どき、上野公園（東京都台東区）のベンチに座りおにぎりを食べようとして、ふと目をあげると、40歳代の男性が立っていた。

手のひらを重ねて「おにぎりをください」と。とっさのことで動転し、無意識に「１個だけですよ。向こうで食べてください」と言い、おにぎりを渡していた。

残りの１個を食べ終えそろそろ行こうと思っていると、その男性がやってきた。一瞬今度は、と思っていると、「どうもありがとうございました。４日間くらい何も食べていません。残飯を探して食べています」と言い残して立ち去った。

４時間後、お腹の空いた私は、食堂に入った。ざるそばを前にして「食べることは生きること」の思いを新たにした。

あの男性はどうしているのかしら？

次回のテーマは「わが家のお正月」です

▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「わが家のお正月」▶締め切りは12月８日(木)必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木１-１-１　所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係　◎Ｅメール（アドレスa9024@city.tokorozawa.saitama.jp）も可。